

第二次山口市総合計画
答 申 案

令和 5 年 1 月 3 1 日
山口市総合計画策定協議会

答 申 案

本協議会は、令和4年（2022年）3月25日に「第二次山口市総合計画の策定」について諮問を受け、これまで9回の協議会を開催し、山口市のまちづくりの取組状況や課題、今後の取組の方向性などについて、慎重に審議を行ってまいりました。第二次山口市総合計画後期基本計画（案）については、これまでの審議内容を十分に反映したものであり、適切であると認め、下記の意見を付して答申します。

記

1 「ずっと元気な山口」の実現

山口市では、第二次山口市総合計画前期基本計画に基づき、協働のまちづくりのもとでの市内21の地域づくりや、山口・小郡両都市核づくりを中心とした広域県央中核都市づくりなど、新市発足以降のまちづくりを着実に進めておられることについて評価いたします。

こうした中、本協議会では、「子育て中の女性が働きやすい環境づくり」、「障がいのある人も、ない人も暮らしやすいまちづくり」、「地域福祉を推進する仕組みづくり」、「市民が創りあげる文化創造都市やまぐち」、「プロスポーツによるまちの活性化」、「ハード・ソフト両面からの地域防災力の強化」、「地域脱炭素のまちづくり」、「コンパクト・プラス・ネットワークの考え方のもとでの良好な住環境づくり」、「都市計画との連携のもとでの公共交通の再構築」、「インバウンド誘客の可能性」、「山口・小郡両都市核それぞれの強みを生かした産業集積」、「地産地消などを通じた農業の振興」、「多面的な機能を有する森林の適正管理」、「中小企業の人材確保や事業承継への対応」、「協働のまちづくりのもとでの地域コミュニティの再生」、「郷土愛が支える持続可能なまちづくり」、「若者から見た山口の魅力と定住促進」、「地域課題解決に向けたデジタル技術の活用」、「県の施策との更なる連携」など、多岐にわたる分野における議論が交わされました。後期基本計画においては、こうした議論も踏まえながら、関連する施策分野の取組をさらに充実させていただくことを期待します。

また、とりわけ活発な議論が交わされたテーマの一つが、「若者」でございました。山口市が転入超過の傾向にある中で、20代の若者世代は、大都市圏への転出超過が続き、これは、5年前にこの第二次総合計画が策定された時から変わっていません。市内には、3つの大学が立地し、多くの学生が山口市で暮らしています。また、そこで学ぶ学生のうち、半数近くは、卒業後も山口で暮らしたいと感じていながらも、実際にはその希望が叶わずに、卒業とともに市外へと出ているという状況もあります。

これからの山口市は、こうした若者たちが「暮らし続けられるまち」、「暮らし続けたいと思うまち」であってほしいと考えます。そのためには、若者がまちに飛び出し、市内の多彩な地域資源の魅力に触れ、同時に、地域や市民と交流し、まちづくりにも関わっていただけるように、若者にまなざしを当てたまちづくりを進めていただくことを期待します。

そして、こうした若者の活力を、まちの元気を生み出す原動力として、「ずっと元気な山口」を実現していただきたいと思えます。

2 山口の発展を支える3つの変革（3X）

今後も人口減少が進む中で、山口市が持続的に発展していくためには、絶えまないチャレンジを続けることこそ重要です。こうしたチャレンジを、山口市の特性を生かしつつ、新しい時代の流れに対応しながら支えていくために、以下の3つの変革が必要であると考えます。

（1）人材育成（HX：ヒューマントランスフォーメーション）

山口市には、大規模な工場が数多く立地しているわけでも、また大都市圏のように大きな企業があるわけでもありません。そうした山口市にとっての最大の資源は「人」であり、その資源である「人」を育て、あらゆる「人」の活躍を応援するための環境づくりを進め、まちの活性化につなげていくことが重要であると考えます。

市内には、3つの大学を始めとした高等教育機関や、YCAMなどの文化施設、県の関係機関などが多数立地し、「人」を育てるための場所・機能に恵まれています。こうした山口市の特性も生かしながら、まちの活力を生み出す「人」をしっかりと育てていきたいと思えます。

（2）デジタル技術の活用（DX：デジタルトランスフォーメーション）

現在、国をあげて社会全体のデジタル化が進められようとしています。

一方で、「何のためのデジタル化なのか」という目的が曖昧になり、デジタル化そのものが目的化している状況も見受けられるように感じます。

こうした中で、山口市においては、人と人のつながりやコミュニケーションなどの、言わば、アナログと言われるものを大切にするために、デジタル技術を活用し、生活や時間のゆとり、新たな人のつながりを生み出すような、心豊かな市民の暮らしを第一に考えたデジタル化を進めていただくことを期待します。

（3）地域脱炭素（GX：グリーントランスフォーメーション）

豊かな森林や田園地帯といった美しい自然は、山口市の大きな魅力の一つであり、こうした自然と調和した地方都市の魅力を大切にしていかなければなりません。こうした魅力を保ちながら、便利で質の高い暮らしを創造していく原動力となるのが、地域脱炭素であると考えます。

ゼロカーボンシティを宣言された山口市においては、2050年カーボンニュートラルの実現という長期的な目標の達成も見据えながら、まちの魅力や価値を高めつつ、持続可能な地域社会を実現していくため、あらゆる分野において、地域の特性や資源を生かしながら、地域脱炭素の取組を進めていきたいと思えます。

むすびに

今後、山口市においても、人口減少や超高齢社会の進展が本格化していくことが予測される中で、この後期基本計画の計画期間の5年間は、そうした諸課題にしっかりと対策や備えをしておかなければならない重要な期間です。本協議会では、山口市の未来を見据え、まちの持続的な発展につながるような多くの議論が交わされました。こうした議論を踏まえて策定される後期基本計画の諸施策を実行する上では、多くの御苦勞もあることと思えます。そうした中であっても、決して計画倒れとなることのないよう、果敢にチャレンジし、未来に向けたまちづくりを積極的に推進されることを期待します。また、引き続き、多様な分野の知見を持ち寄りながら、意見を交わす対話の場を設けていただくなど、より良いまちづくりに向けて、共にチャレンジできる環境づくりを切に願います。